

令和8年度

新潟県病害虫発生予察速報第1号

(ナシ赤星病の薬剤散布時期について)

1 ナシ赤星病の越冬伝染源量と薬剤散布時期

(1) 越冬伝染源量

中間宿主ビャクシン類における冬胞子堆の1小枝当たり病斑数は0.52個で、**越冬伝染源量は
平年比やや多い(表1)。**

表1 ナシ赤星病の中間宿主における冬胞子堆密度(1小枝あたり病斑数)

調査地点	本年	前年	平年	発生概評
新潟市江南区早通	0	0	0.05	並
新潟市秋葉区子成場	1.03	0	0.43	やや多
平均	0.52	0	0.24	やや多
(参考)新潟市南区味方	0.10	—	—	—

注1) 令和8年4月3日、各地点30小枝調査

注2) 平年は、平成28年～令和7年の10か年平均

注3) 新潟市南区味方は、令和8年から調査

(2) ビャクシン類及びなしの薬剤散布時期

積算温度から推定した冬胞子堆の成熟状況に基づく薬剤散布時期は、**ビャクシン類では4月
11日頃、なしでは4月21日頃で平年より2～3日早いと予想される(表2)。**

表2 ナシ赤星病の薬剤散布時期の予測

気象観測 地点	積算温度		ビャクシン類散布時期		なし散布時期	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
聖籠	333.6	285.4	4月10日	4月14日	4月20日	4月23日
新津	308.5	267.2	4月12日	4月15日	4月21日	4月24日
巻	307.5	282.8	4月12日	4月14日	4月21日	4月23日
三条	319.4	297.9	4月11日	4月13日	4月21日	4月22日
平均	317.2	283.3	4月11日	4月14日	4月21日	4月23日

注1) 積算温度は、2月1日～3月31日の日平均気温の積算値(日平均気温が0℃以下は加算しない)

注2) 平年は、平成28～令和7年の平均

注3) 散布時期の予測は、2(3)に示す予測式から算出

注4) 気象観測地点のうち、「聖籠」は新潟県農業総合研究所園芸研究センター。

他の3地点は、アメダス観測地点。

2 今後の対応と注意点

- (1) 今後の気象経過により薬剤散布時期が変動することがあるので注意する。
- (2) バクシン類は冬孢子堆が成熟して膨潤する直前に薬剤散布する。降雨が予想される場合は、降雨直前の薬剤散布が効果的である。
- (3) 薬剤散布時期は各地域の気象観測値を利用して、次式で予測できる。

予測式 バクシン類 $Y = 36.572 - 0.082 X$

なし $Y = 41.91 - 0.0685 X$

Y : 4月1日以降の日数

X : 2月1日～3月31日の積算温度（日平均気温が0℃以下は加算しない）